

始



1424
335

六年度正
中央度量衡檢定所報告

1421-335



目次

第一 大正六年度度量衡器甲種檢定成績

其ノ一 度量衡器檢定成績

一 總括 檢定成績 一

附 檢定請求箇數及手数料累年比較表 一

二 種類別檢定成績 三

三 檢定請求事由別箇數 五

四 不合格事由及改良ヲ要スル主ナル事項 八

五 甲種檢定請求者府縣別 一三

其ノ二 瓦斯「メートル」檢定成績 一四

一 總括 檢定成績 一四

二 種類別檢定成績 一六

三 檢定請求事由別 一七

四 不合格事由別 一八

五 指導及改善ニ關スル事項 一八

六 出張檢定ニ關スル事項 二〇

目次

所寄贈本

大正 8.1.30 寄贈

七 照參 使用ニ係ル瓦斯「メートル」ノ數……………二〇

第二 大正六年度度量衡器又ハ計量器比較検査成績……………二六

附 比較検査申請箇數及手數料累年比較表……………二七

第三 大正六年度輸移出度量衡器……………三一

其ノ一 輸出度量衡器數……………三二

其ノ二 移出度量衡器數……………三五

附 錄

一 農商務省制拔萃……………一

二 中央度量衡檢定所位置ノ件……………一

三 中央度量衡檢定支所及出張所ノ名稱、位置等ニ關スル件……………二

四 中央度量衡檢定所及支所事務取扱區域ノ件……………二

五 度量衡ニ關シ地方長官ニ委任スル事項……………三

六 度量衡器又ハ計量器ノ比較検査手數料ニ關スル件……………四

七 甲種檢定請求者及度量衡器又ハ計量器ノ比較検査申請者心得……………五

八 中央度量衡檢定所處務細則……………七

第一 大正六年度度量衡器甲種檢定成績

其ノ一 度量衡器檢定成績

一 總括 檢定成績

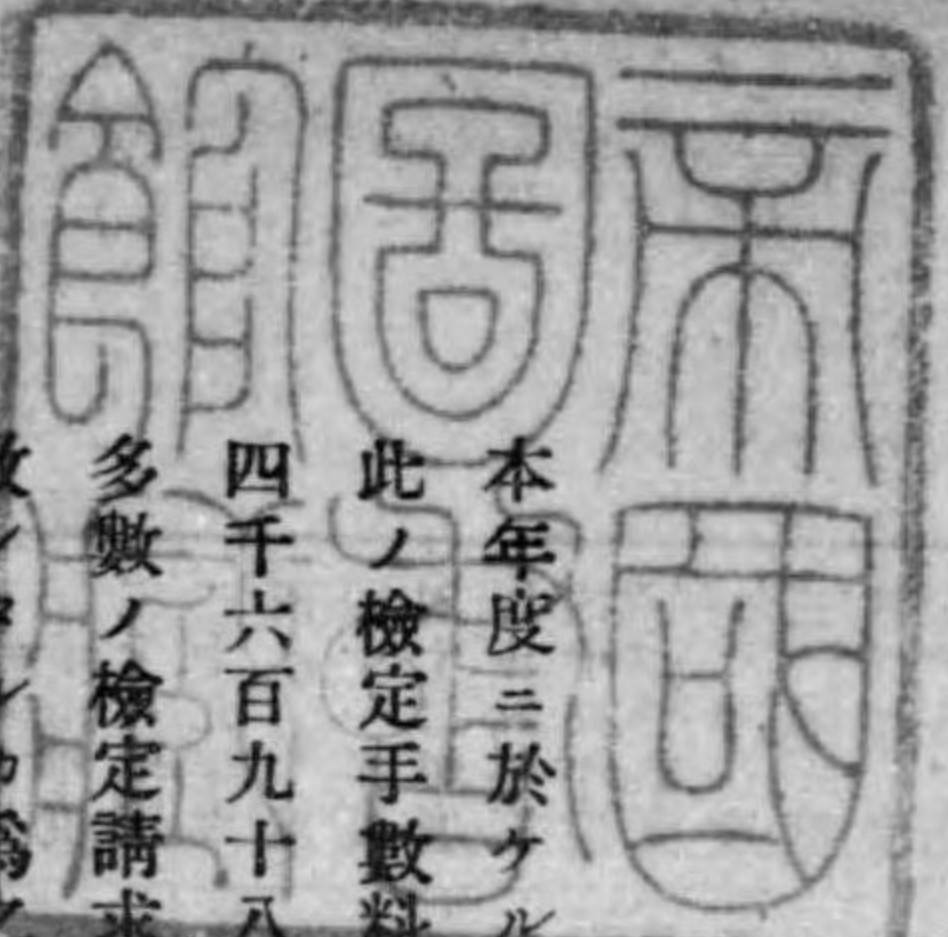
本年度ニ於ケル度量衡器(瓦斯「メートル」ヲ除ク)ノ甲種檢定總箇數ハ七十萬五千二百七十七箇ニシテ此ノ檢定手數料ハ十一萬五千四百七十四圓餘ナリ之ヲ前年度ニ比較スルトキハ箇數ニ於テ二十三萬四千六百九十八箇、手數料ニ於テ三萬六千二百三十一圓餘即チ約五割ノ激増ヲ示シ檢定開始以來最多數ノ檢定請求數ヲ見ルノ盛況ヲ呈セリ是レ時局ノ影響ハ漸次我國商取引ノ繁盛並工業ノ勃興ヲ誘致シタルカ爲之等商工業者ノ使用スル度量器(主トシテ疊尺、卷尺)化學用量器及衡器(主トシテ化學天秤、臺秤、自働秤)ノ需要増加シタルニ因ルモノノ如シ

前記ノ數字ヲ本支所別トシ且累年比較ヲ示セハ左表ノ如シ

大正六年度檢定請求箇數及手數料本支所別表

種別	檢定箇數			檢定手數料				
	度量器	量器	衡器	計	度量器	量器	衡器	計
本所	二七,五〇九	一四三,六六三	一一,七二六	四三八,八九八	三五,六八八	三九,〇三五	五三,〇三〇	二五,六七七
支所別								
八支所								八一,八九六
六八支所								六八〇

第一 大正六年度度量衡器甲種檢定成績



大	一五一,四五〇	一〇四,四三八	一四,〇三五	二六九,九一三	一〇,三五八五八	一〇,三七八二〇	三三,三〇〇,二九〇
阪	三,六六〇	二,三四〇	四一六	六,四一六	二六六,五九〇	一一七,〇六〇	八九〇,四一〇
福	四三八,六一九	二五〇,四四一	二六,一五七	七〇五,二一七	四七,六七八八七	三六,三三〇,一六〇	一一五,四七四,〇三〇
計							

度量衡器甲種檢定箇數及手數料累年比較表

年種別	檢定箇數			檢定手數料			前年度比較	
	度	器	計	度	器	計	增	減
明治	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
三十六年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
三十七年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
三十八年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
三十九年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
四十年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
四十一年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
四十二年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
四十三年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
四十四年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
四十五年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
大正	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		
六年度	一六〇三	一一	二,三五五	一〇,〇一五	一,五五〇	三,一五〇		

二 種類別檢定成績

度量衡器各種製品ノ状態ニ付テハ逐年多少改善ノ域ニ進ミツツアリト雖本年度ニ於テハ前項ノ如ク未會有ノ活氣ヲ呈シタル盛況ナリシヲ以テ製作者ハ極力其ノ能率ヲ擧ケンコトニノミ奔走シ從テ器物速製方法ニ付テハ改善セラレタル點尠カラスト雖之カ品位ノ改善ニ付テハ講究畫策スルノ邊ナキモノノ如シ尙不合格率ノ方面ヨリ觀察スルトキハ本年度ハ前年度ニ比シ度、衡器ニ在リテハ降下シ量器ニ在リテハ稍昂上シタルモ平均二分五厘ニシテ前年度ノ平均二分九厘ニ比シ稍好成绩ヲ見ルニ至レリ是レ製作技術上ニ於テ多少進歩シタルモノト謂フヘシ即チ左表ノ如シ

大正六年度度量衡器檢定成績本支所對照表

種別	本所		大阪		福岡		計	
	檢定數	不合格百分比	檢定數	不合格百分比	檢定數	不合格百分比	檢定數	不合格百分比
直尺	八四,九五五	一,三三六	四六,七〇四	五八三	一一,二四二	六	一三,〇〇一	一,五
曲尺	二,二一八	一五二	八三五	二八	一	一	二,九五三	一,六一
疊尺	一〇七,三三三	三,五七四	三,〇二八	三,三六	四〇	二,四	一〇,〇〇八	六,六四四
卷尺	二五,七九〇	六三八	三,〇二八	三,三六	三三〇	一,五	三〇,六四四	三,五
鏈尺	四八,二七三	二	四,七七三	一	一三三	二	三〇,六四四	七四
縮尺	四,九七八	八〇〇	一〇,七五五	一七	一	九	一〇,七五五	一,八
鑄物尺(特殊)	四,九七八	四〇七	五,〇五七	三三	二二	三	一〇,二四七	七三
計	二七三,五〇九	六,九一八	一五一,四五〇	四,二〇四	二,八	三,六〇〇	四八,六六九	一一,三五〇

第一 大正六年度度量衡器甲種檢定成績

分 (特殊)	秤							器量用學化				樹			
	小計	自動秤	桿秤	十分秤	上皿秤	臺秤	上天秤	計	小計	化學用器			計	升	
										「フラスコ」	「ビベット」	「ビュレット」			「シリントル」
四、六九〇	二、三六〇	一	四七	一五	空	七六	九八	一四、六六三	五、五四五	一〇、六七三	二五、八六〇	五、二九〇	一〇、三六五	九〇、六六八	四〇
三六	二七	五	四	四	七	一	六	四、〇九〇	一、三三三	二、三	五〇五	六四	二七	二、八五三	五
〇・八	一・一	一・三	三・五	六・二	〇・九	一・四	〇・六	二・八	二・三	二・三	二、七四	二、七	二、三	三・一	三・一
七、一六	一、三六	四	一〇	四	一、二七	一、二七	四	一〇、四八	三、七〇	一〇、四八	一、七五	五、三三	二、七四	八六、六二	五、五七
一三	二四	一	一	一	一	一	六	一、二八	三三	一、二八	一、五〇	九	五〇	八二	七四
二・九	七・六	二・〇	一〇・〇	二・一	一〇・〇	二・一	一・四	一・三	二・七	二・七	一、六	九	一、六	一・〇	一・〇
一	合	一	一	一	七	九	二	二、三四〇	一	一	一	一	一	二、三四〇	三〇
三・三	一・三	一	一	一	一	一	一	二・〇	四	二・〇	一	一	一	二・〇	一
二、八五七	四、〇八一	四	三	三	一、九七七	一、二四	一、四三	二五〇、四二	六四、八二五	二五〇、四二	三、〇八三	七、〇八三	三、〇八三	一七九、六〇九	六、〇一七
一六	一五	六	五	五	三	三	二	五、四三四	一、五六四	五、四三四	三、六二	三、六二	三、六二	三、八六〇	七九
二・〇	三・七	一・四	四・〇	一	四・四	六・二	〇・八	二・二	二・四	二・二	二・四	二・四	二・四	二・二	二・二

合	器	
	銅	錘
計	計	計
四、八八八	二、七七六	四、六六六
二、一一〇	一〇一	九、三五六
二六	〇・九	七五
二六、九三三	一四、〇九五	五、三三三
五、九六八	四、七三	二、三八七
二・二	三・四	三三三
六、四六六	四・六	三三三
二八五	一一	一〇
四・四	二・六	一〇、二一九
七〇、二二七	二六、一五七	三三、〇七六
一七、三三三	五八九	四七
二・五	二・五	

三 檢定請求事由別箇數

本年度中檢定請求ニ係ル度量衡器ヲ其ノ請求事由タル製作、輸入、修覆、使用中ノモノニ區別シ其ノ割合ヲ觀ルトキハ製作九・九割ニシテ其ノ大部分ヲ占メ（經濟界順況ノ爲乎兩三年來漸次修覆數ハ減シ製作數増加シツツアリ）輸入ハ〇・〇二割ニシテ前年度ニ比シ三分ノ一ヲ減シ修覆亦〇・〇五二割ニシテ前年度ノ〇・〇六五ニ對シ〇・〇一三割ヲ減少セリ殊ニ請求數ノ尠ナキハ使用中ニ係ルモノニシテ僅々二十三箇即チ〇・〇〇〇五割ニ過キス尙更ニ度量衡ノ三器ニ分チ其ノ割合ヲ示セハ度器ニ在リテハ製作九・九割輸入〇・〇三三割、修覆〇・〇〇八割、使用中ノモノ僅ニ十九箇ヲ算スルノミ又量器ニ在リテハ修覆九箇使用中ノモノ一箇アリタル外他ハ總テ製作ナリ次ニ衡器ハ其ノ秤ニ於テ製作七・三割、修覆二・五割、輸入〇・〇九七割、使用中ノモノ絶無ノ状態ナリ其ノ分銅及錘ノ分ニ在リテハ製作ハ八・九割、修覆一・〇割、輸入〇・〇一割使用中ノモノ僅々〇・〇〇五割ヲ示スニ過キス之ヲ要スルニ時局發生以來度量衡三器ヲ通シ製作率ハ増加シツツアルモ其ノ他ノ事由就中輸入

率ノ如キハ漸次減退ノ趨勢ニ在リ此等詳細ニ付テハ左表ノ如シ

大正六年度檢定請求中製作、輸入、修覆、使用中別表

種別	檢定請求數										(參照)前年度比較(△印ハ減)									
	製作		輸入		修覆		使用中		計		製作		輸入		修覆		使用中			
	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計		
直尺	133,075	691	133,075	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	
	2,947	6	2,947	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
曲尺	190,157	74	190,157	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136	
疊尺	30,591	20	30,591	79	79	79	79	79	79	79	79	79	79	79	79	79	79	79	79	
卷尺	60,741	61	60,741	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
鏈尺	10,247	1	10,247	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	
縮尺	69,384	37	69,384	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
碼尺	5,590	10	5,590	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	
米尺	351,845	10	351,845	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	
計	436,819	143	436,819	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	
化學用	185,635	1	185,635	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
櫛	64,450	1	64,450	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
量	64,450	1	64,450	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

種別	檢定請求數										(參照)前年度比較(△印ハ減)									
	製作		輸入		修覆		使用中		計		製作		輸入		修覆		使用中			
	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計	數	計		
天皿秤	1,003	14	1,003	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	
	8	2	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
上皿秤	1,331	17	1,331	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	
台皿秤	105	1	105	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
十分秤	119	3	119	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
桿秤	419	3	419	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
自働秤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
(特殊)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
小計	2,986	40	2,986	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	
天皿秤	1,003	14	1,003	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	404	
	8	2	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
上皿秤	1,331	17	1,331	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	639	
台皿秤	105	1	105	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
十分秤	119	3	119	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
桿秤	419	3	419	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
自働秤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
(特殊)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
小計	2,986	40	2,986	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	1,055	
銅分銅	11,354	26	11,354	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	
	8,449	1	8,449	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	
銅分銅	11,354	26	11,354	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	465	
(特殊)	8,449	1	8,449	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	1,770	
小計	19,803	27	19,803	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	2,235	

第一 大正六年度度量衡器甲種檢定成績

計	合			器		
	碼	米	尺	計	封	貫
計	封	度	法	計	度	貫
七〇〇,〇四〇	三六四,八四五	二五九,七四一	七五,四五四	二,三六九	一三,〇〇〇	九,七三六
一,四九七	一,四五四	四三	—	六六	三三	三三
三,六四八	二,七七一	八三二	四六	三,三九〇	二,四七〇	八二九
三三,七五二	二四,三六〇	二六,〇六七	六	二二	二	—
二三四,二四八	一八,一七三	九〇,四一八	一五,六五七	三,八四一	三,五〇八	一〇,五八〇
△ 一四六	△ 一二五	△ 二二	—	△ 四	—	△ 一九九
五七八	五五四	一六六	△ 一四三	八五六	六九〇	一六五
一八	—	—	—	—	—	—

四 不合格事由及改良ヲ要スル主ナル事項

近時我國度量衡器ノ製作技術ハ著シク進歩シタリト雖之ヲ先進國ニ於ケル技能ニ較フレハ其ノ及ハサルコト遠ク尙一段ノ改善ヲ要スヘシ而シテ今ヤ時局ノ影響ニ依リ内地ノ需要益昂進シ且交戰國中ノ製作能率ヲ減シタル爲乎我邦ヨリ輸出ヲ仰クニ至リタル等製作者ハ内外ノ需要ニ應スル爲多數ノ製品ヲ出シ又一面諸材料暴騰シタルヲ以テ之カ選擇ヲ爲シ難キ事情アリタルニ拘ハラス其ノ不合格率ニ至リテハ前年度ニ比シ稍低下スルニ至レリ是レ經濟界空前ノ激變ニ連レ職工ニ不足ヲ告ケタルヲ以テ止ムナク殆ト素人ニ近キ者ヲ傭入レ其ノ急ニ應ジツツアリタルモ本年度ニ至リテハ之等

職工ノ技能熟達シタルコト及此際新ニ機械ヲ据附ケタル者又ハ從來ノ機械ニ施工改良ヲ加ヘタル者等アリタル爲製作能率ヲシテ増進セシメタルト同時ニ不合格率ニ於テモ減少スルニ至リタル所以ナリ以下此等ノ不合格事由及改良ヲ要スヘキ點等ニ付項ヲ逐フテ摘録スヘシ

度量器

一、前年度ニ比シ進歩シタル點

前年度ニ比シ進歩シタルコトハ其ノ不合格率ノ降下ニ依リテ窺知スルヲ得ヘシ今本所檢定ノモノ

ニ付概評スレハ

一、一般度量器

イ、目盛ハ全長、分長ノ大小ニ因ル不合格數減少シタルコト

ロ、材料ハ伸縮少ナク堅牢ニシテ容易ニ折レ且屈曲ノ虞アルモノナク又反リタルモノ、拗レタルモノ及縁ノ凹凸アルモノ等殆ト其ノ影ヲ認メサルニ至リタルコト

一、金屬製疊尺

イ、連接部分ニ發條ノ仕掛ナカリシ爲使用上甚不便ナリシカ簡單ナル施工ニ依リ此ノ缺點ヲ償

ヒタルコト

ロ、腐蝕目盛ハ從前ニ比シ細クシテ深ク且鮮明巧妙トナリタルコト

一、木製疊尺

イ、連接部ノ發條仕掛ノモノニシテ少シク張力ヲ加フレハ容易ニ伸張セシモ近來之カ改善ヲ加

ロ、印刷目盛及塗料ノ研究ニ付テハ長足ノ進歩ヲ爲シ鮮明且容易ニ剝落セサルニ至リタルコト
等特記スヘキ事項ナリトス次ニ大阪支所檢定ノモノニ付テモ目盛線ノ鮮明、塗料及連接部分ノ改
善等其ノ重ナルモノナリ又福岡支所ニ於テハ材料ノ改善及技工ノ進歩ニ依リ多少器物ノ品位ヲ高
メ從テ稍不合格率ヲ減少スルニ至リタリ

二、缺點又ハ改良ヲ要スヘキ點

本所ノ檢定ニ係ルモノニシテ改善ヲ要スト認ムルモノハ「ノキス」ニ於ケル其ノ開嘴及本枝ト副
枝トノ磨リ合セ不完全ニシテ殆ト其ノ作用ヲ爲ササルモノ尠カラス之レ材料ノ良否及職工技能ノ
優劣ニ依ルヘシト雖現今ノ製作ハ殆ト從來ノ慣習タル手工的ナルカ故時間ト勞力トヲ徒費シテ尙
且劣等品ヲ產出スルノ有様ナルヲ以テ之カ改善ヲ爲サムトセハ漸次機械的製作ニ俟ツノ外ナシト
ス又竹製度器ノ目盛ニ付テハ近時稍精巧ニ赴キツツアリト雖其ノ製作方法ニ至リテハ依然舊套ヲ
脱セサルヲ以テ多數ノ需要ニ應セムトセハ是レ亦機械的作業ニ依ル施設ヲ必要トスヘシ尙麻製卷
尺ニ在リテハ或一小部分ノ製品ニ限り材料ノ乾燥不充分及塗料ノ不完全ナルモノアルヲ以テ之カ
研究方法ニ付注意ヲ加ヘツツアリ次ニ大阪支所ノ檢定ニ係ルモノニ付テハ疊尺（印刷目盛ノ分）
各片ノ接合竝端金具取附不完全ヨリ生スル長サニ差異アル等特記スヘキ事項ナリトス尙本所及兩
支所ヲ通シ不合格ノ大部分ヲ占ムルモノハ表記、標識ノ錯誤及脱落又ハ目盛ノ不揃ニ因ルモノニ
シテ之等ノ點ニ付テハ製作上尙一段ノ注意ヲ要スヘシ

量 器

一、前年度ニ比シ進歩シタル點

本所ニ於テ多少進歩シタリト認ムルモノハ標識及目盛線ノ太サニ於テ整一ヲ來シタルコトニシテ
大阪支所ノ檢定ニ係ル分ニ付テハ化學用量器ノ目盛及普通量器ノ材質ニ付多少改良セラレタルヲ
以テ稍不合格率ヲ減シタルノ外特記スヘキ事項ナシ次ニ福岡支所檢定ニ係ルモノニ付テハ近來原
料ノ選擇及製作方法ニ付督勵シタルヲ以テ稍其ノ成績ノ見ルヘキモノアルニ至レリ
要之本器本年度ノ不合格率二分二厘ヲ前年度ノ一分八厘ニ比スルトキハ成績稍不良ノ感ナキニ非
スト雖時局發生以來材料ハ暴騰シ且一面ニ於テハ普通製作シツツアル量器ノ外注射器其ノ他ノ計
量器等海外ヨリ多大ノ注文アリタル爲職工ニ不足ヲ告ケ不熟練ナル者ヲモ備入サルヘカラサルニ
モ拘ラス前年度ニ比シ約二倍ノ製作高ヲ出セル狀況ナリシヲ以テ製作者中新ニ機械ヲ設備セル者
アル等辛ウシテ其ノ急ニ應シタル次第ニシテ其ノ不合格率ニ於テ甚シキ差異ナカリシハ寧ろ製作
技術ノ進歩ト見ルモ過言ニ非サルハシ

二、缺點又ハ改良ヲ要スヘキ點

本支所ヲ通シ材質不良ノ爲缺損スルモノ又製作上ノ不注意ニ基ク疵、氣泡、筋、目盛ノ粗漏竝器物
ノ形狀及大サノ整一ヲ缺クモノアル等其ノ重ナル缺點ナリトス又本所檢定ノモノニシテ塗料ノ剝
落セルモノ、目盛線ノ傾斜セルモノ「メスフラスコ」「メスシリントル」ニシテ座リ惡シキモノ「ピ
ュレット」ニシテ括栓ノ擦リ合セ不完全ナルモノアルカ如キ又容量ニ於テハ漸次改良ノ域ニ進ミ

ツツアリト雖尙水際視定ヲ誤マル爲乎不合格トナルモノ多數アルカ如キハ共ニ改良ヲ要スヘキ點ナリトス

衡器

一、前年度ニ比シ進歩シタル點

前年度ニ比シ著シキ進歩ノ跡ヲ認ムル能ハスト雖大體ニ於テ好成績ヲ示シ本所檢定ノモノニ付テハ桿秤及自働秤ノ不合格前年度ニ比シ約四分ノ一ニ減シタルカ如キ又錘ノ象眼及自働秤ノ空掛ニ於ケル直點ノ變化ニ因リ不合格トナリタルモノ極メテ少數ナルカ如キ蓋シ進歩シタル點ナリトス（衡器製作者守谷定吉本年度始メテ鎖附天秤ヲ製作ス）次ニ大阪支所ニ於テハ臺秤ノ桿ノ摩擦除ケノ仕上、又ノ硬度竝其ノ取附、化學用天秤ノ作用及構造等ニ於テ多少改良セラレタルモノアルノ外特記スヘキ事項ナシ又福岡支所ニ於テハ巢、疵、象眼ニ因ル不合格數減少シ漸次改善ノ域ニ進ミツツアリ

二、缺點又ハ改良ヲ要スヘキ點

本所檢定ニ係ルモノニ付テハ表記、標識ニ依ル不合格著シク増加シ又調子玉ノ作用不完全ナルモノ臺秤ニ於ケル把手ノ變化竝桿秤ニ於ケル搾リ等ニ於テハ辛ウシテ合格シタルモノ亦尠カラス尙天秤ノ四隅ノ器差及直點ノ變化ニ付テハ特ニ注意ヲ與フルノ必要アリ次ニ大阪支所檢定ニ係ルモノニ在リテハ臺秤ノ桿ノ搾リ、押シ引キニ於ケル變化、四隅ノ變化、把手ノ上下ニ依リ生スル變化、比例螺旋部ノ調節不完全ヨリ生スル差狂、摩擦除ケ及刃ノ緊着不完全竝刃ノ硬度ノ不充分ヨリ生

スル故障等極メテ多ク其ノ他天秤ニ於ケル刃及刃受ノ仕上等ニ付テハ尙一段ノ研究ヲ要スヘシ次ニ福岡支所檢定ノモノニ在リテハ分銅及錘ノ重量不正ナルモノ尠カラス之レ本支所ヲ通シテ同様ナリトス
要スルニ世界的動亂ノ影響ハ衡器ノ主原料タル鐵材ノ拂底ヲ來シタルニ反シ需要ハ却テ激増シタルカ爲本器製作上至大ノ打撃ヲ蒙リ鑄物材料ノ如キハ脆弱ト認ムル程度ニハ至ラサルモ鑄巢多キモノ又ハ仕上加工等ノ粗漏トナリタルモノアル等多少製品ニ不同ヲ來シタルヘシト雖大體ニ於テ前年度ニ比シ好成績ヲ示シタルハ案外ノ現象ナリト謂フヘシ

五 甲種檢定請求者府縣別

今茲ニ爲參考度量衡器甲種檢定請求者府縣別ヲ掲記スレハ左ノ如シ

大正六年度度量衡器甲種檢定請求者府縣別表

府縣別	種別	度量器	量器	衡器	器	計
東京	京	二〇	八	八	一五	三六
大阪	都	九	四	一	一	二八
京都	都	一	二	一	一	三
神奈川	府	三	一	一	一	三

計	和歌山	奈良	福島	大分	岡山	愛知	滋賀	徳島	福岡	新潟	兵庫
	山	良	島	分	山	知	賀	島	岡	瀧	庫
五四		一		一		一		一	一	五	三
一五											
四一		一		一		一		一	八		五
一一〇		一		一		一		一	一	四	三
											五

其ノ二 瓦斯「メートル」検定成績

一 總括 検定成績

本年度ニ於ケル瓦斯「メートル」ノ検定總箇數ハ十萬九千三百九十一箇ニシテ此ノ検定手數料ハ八萬八十三圓二十錢ナリ

以上検定箇數中不合格ノ決定ヲ與ヘタルモノ五千九百七箇ニシテ検定總數ノ五分四厘ニ相當シ前年度ノ不合格率四分二厘ニ比シ一分二厘ノ高率ヲ示シ一見製作技術退歩ノ惡現象ヲ呈シタルカノ如シト雖前年度ニ於テハ六箇月ニ亘リ一旦不合格トナリタルモノノ假下渡ヲ許可シ再檢定ヲ爲シ其ノ幾分ヲ合格セシメタルヲ以テ不合格率低下シタル所以ニシテ實ハ第一次檢定ニ於ケル不合格平均率ハ一割二分ナリシニ依リ之ニ對比スルトギハ寧ロ長足ノ進歩ナリト云ハサルヘカラス換言スレハ瓦斯「メートル」檢定開始以來ノ自然的成績トシテハ其ノ初年度ノ不合格率一割二分ナリシモ次年度ニ至リ一躍五分四厘ニ進ミタルモノト謂フヲ得ヘシ

尙本年度ノ檢定總箇數ヲ前年度ト比較(前年度ノ檢定期間ハ九箇月ナリシヲ以テ一箇月平均數ニ依リ比較ス)スルトキハ本所ニ在リテハ一箇月平均百七十八箇ヲ大阪支所ニ在リテハ三十五箇ヲ増シ福岡支所ニ在リテハ百二十二箇ヲ減シタリ而シテ本支所ヲ通シ一箇月平均九十一箇即チ一箇年約一千箇ノ増加ヲ見ルニ至レリ之等ノ成績表ヲ擧クレハ左ノ如シ

大正六年度瓦斯「メートル」検定成績表(×印ハ廣島出張所ノ分ヲ示ス)

本支所別	種別	檢定箇數	不合格數	檢定箇數百中不合格割合	檢定手數料
本所		六四,三二六	三,八四三	六〇	四九,三二一
大阪支所		三六,九三四	一,六三三	四四	二五,三三〇
福岡支所		七,三四二	四二〇	五七	四,五九九
計		一〇九,三九一	五,九〇七	五四	八〇,〇八三

二 種類別検定成績

本年度ニ於テ検定シタル瓦斯「メートル」ノ中其ノ種類別ニ依リ請求割合ヲ擧ケレハ乾式普通「メートル」大部分ニシテ九割六分ヲ占メ次ハ前金「メートル」ニシテ四分三厘ニ當リ「アセチリン」用ノ如キハ絶無ニシテ濕式「メートル」亦僅々二十八箇即チ一萬箇中二、五箇ノ割合ナリ更ニ其ノ不合格率ニ付テ觀ルトキハ乾式普通「メートル」五分四厘濕式「メートル」七分一厘ニシテ前金「メートル」ハ四分六厘ヲ示ス尙之ヲ前年度ニ比スルトキハ普通及濕式「メートル」ニ於テハ大差ナキモ前金「メートル」ニ於テ前年度ノ九分ニ對シ四分六厘ニ減退シタルヲ見ル是レ大阪支所ノ成績ニ於テ非常ナル進歩ヲ爲シタルニ因ル之カ詳細ニ付テハ左表ノ如シ

大正六年度瓦斯「メートル」種類別検定成績表(×印ハ廣島出張所ノ分ヲ示ス)

種類別	本支所別		大阪		福岡		計	
	檢定 箇數	不合格 箇數	檢定 箇數	不合格 箇數	檢定 箇數	不合格 箇數	檢定 箇數	不合格 箇數
乾式普通	3,566	3,766	3,021	1,932	7,153	3,891	10,468	5,688
乾式前金	56	5	3,870	1,333	189	32	4,685	227
濕式「アセチリン」用	24	5	3	3	1	3	28	7
計	3,616	3,826	6,904	3,271	7,343	4,228	15,907	5,922

三 検定請求事由別箇數

本年度検定請求ニ係ル瓦斯「メートル」ヲ製作、輸入、修覆、使用中ノモノ等ニ區別シ其ノ割合ヲ觀ルトキハ修覆器物九割二分ニシテ其ノ大部分ヲ占メ製作及輸入ハ約四分使用中ノモノ僅ニ一箇ヲ算スルノミナリ更ニ輸入「メートル」ニ付摘録スルニ時局發生以來一般ニ輸入品ノ減少シタルコトハ爭フヘカラサル事實ナルニ拘ラス本器ニ於テ約四分ノ輸入率ヲ示シ一見奇異ノ感ナキニ非ラスト雖是レ殆ト從來ノ輸入品ニシテ本器検定開始サレタルヲ以テ本年度ニ於テ其ノ請求ヲ爲シタルニ依リ輸入欄ニ掲上シタルモノニシテ寧ロ支那、滿洲及南洋方面ニ向ケ輸出ヲ爲シツアルノ現況ナリ左ニ其ノ事由別表ヲ掲クヘシ

大正六年度瓦斯「メートル」検定請求事由別表

事由別	乾式普通		前金		「アセチリン」用		濕式		計
	檢定 箇數	不合格 箇數	檢定 箇數	不合格 箇數	檢定 箇數	不合格 箇數	檢定 箇數	不合格 箇數	
製作	4,168	4,260	87	4,598	—	—	14	4,269	
修覆	96,250	4,260	—	—	—	—	13	100,861	
輸入	—	—	—	—	—	—	—	4,260	
使用中ノモノ	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	104,678	4,685	87	4,685	—	—	28	109,391	

四 檢定不合格事由別數

瓦斯「メートル」ノ檢定請求事由別及其ノ割合ニ付テハ前項ノ如シト雖更ニ其ノ不合格總數五千九百七箇ニ就キ差狂、漏洩、其ノ他ノ事由ニ區別シ其ノ割合ヲ舉クレハ差狂ニ因ルモノ八割五分（速ミ約四分）ニシテ其大部分ヲ占メ漏洩ニ因ルモノ六分七厘、其ノ他ノ事由ニ因ルモノ八分六厘ヲ示セリ之ヲ前年度ニ比較スルトキハ差狂ニ因ルモノ六分其ノ率ヲ高メ漏洩其ノ他ノ事由ニ因ルモノ多少降下セルヲ見ル是レ製作上ニ於テ頗ル注意ヲ拂フニ至リタル結果ナルカ如シ即チ左表ノ如シ

大正六年度瓦斯「メートル」檢定不合格事由別表

事由別	乾式		濕式		計	不合格總數ニ對スル百分比
	普通	前金	アセチリン用	計		
差速	二、三五六	二六	一	二、三八三	四〇、三	
狂遅	二、五二九	九七		二、六一六	四四、三	
漏洩	三六七	一一		三九八	六七	
其他	四三六	八三		五一〇	八、六	
計	五六八	二二七	二	五九〇七		

五 指導及改善ニ關スル事項

瓦斯「メートル」檢定ノ實施ハ時恰モ時局ニ際會シ諸材料就中鐵材及石炭ノ暴騰且經濟界激變ニ伴フ工賃ノ値上等之カ經營者ノ打撃一方ナラス從テ檢定成績ニ及ホス影響亦尠シトセス然レトモ前項ノ如ク大體ニ於テ好成績ヲ見ルヲ得タルハ喜フヘキ現象ナルト同時ニ經營者ノ努力亦想フヘキナリ以下改善ヲ爲シタリト認ムル點及今後之等ノ注意ヲ與フル諸點ニ付項ヲ逐フテ摘録スヘシ

- 一、前年度ニ比シ改善ヲ爲シタリト認ムヘキ點
 - 出張檢定成績ノ廳内檢定成績ニ比シ常ニ良好ナルコトハ檢定開始以來ノ実績ニ徴シテ明カナル所ナリ是レ運搬中ニ於ケル故障其ノ主因ナルヘキヲ以テ檢定ノ際本器ニ振動打撃ヲ加フルノ檢査方法ヲ實施シタリ之カ爲當業者ニ於テモ製作又ハ修覆上頗ル注意ヲ拂フニ至リタル爲漏洩、不動、不通等製作技術ニ基ク不合格數減退シタルカ如キ又下檢査ニ際シ流速ノ測定、觀測ノ方法等ニモ留意スルニ至リタル爲乎大焰、小焰ノ成績概シテ一樣トナリタルカ如キ其ノ他「メートル」ノ外函ニハ厚キ材料ヲ使用シ且「メートル」内部ニ停滯スル「コールタール」ノ「ヅワルブ」ニ浸入スルヲ防ク爲「油除ケ」ノ裝置ヲ爲ス等漸次進歩改善ノ域ニ向ヒツツアリ
- 二、指導及改善ヲ要スヘキ點

瓦斯「メートル」檢定実績ノ前年度ニ比シ長足ノ進歩ヲ爲シタルコトハ前項ノ如シト雖檢定開始以來日尙淺キヲ以テ指導スヘキ事項及改善ヲ要スヘキ點亦尠シトセス殊ニ時局ノ影響ヲ蒙リ諸材料暴騰ノ爲製作又ハ修覆ニ使用スル材料モ古キモノヲ其ノ儘使用スルカ或ハ新シキモ品質粗惡ナルモノヲ使用スル傾キアリ甚シキニ至リテハ計量囊ニ使用スル鞞ノ供給不充ナルカ爲指頭ニテ

輕ク押スヲ以テ直ニ破ルルカ如キ古革ヲ使用シ且「メートル」ノ主要部分タル「ヴワルプ」ニ油ヲ注キ一時的其ノ作用ヲ圓滑ナラシムルモノ等アリ尙工賃騰貴ノ爲勢ヒ加工、仕上ヲ省略スル等之等ノ點ニ付テハ充分ノ注意ヲ加フルノ必要アリ其ノ他前年度ニ於テ既ニ列舉シタル如ク指針ノ短キニ過クルモノ、指針ノ進行不規則ナルモノ、鞣及「ヴワルプ」ノ取附方前金装置ノ「ヴワルプ」ヲ支持スル「オーム」ノ脱出防止方法及「タンゼント」捻子調整後ノ固定方法等ニ付テハ尙一段ノ研究改善ヲ要スヘシ

六 出張檢定ニ關スル事項

本年度ニ於ケル瓦斯「メートル」檢定總數十萬九千三百九十一箇ノ中出張檢定ニ係ルモノ一萬四千四百四十二箇ニシテ此ノ不合格數ハ四百六十三箇即チ三分二厘ノ割合ニ相當セリ而シテ之ヲ本年度不合格率五分四厘ニ照比スルトキハ二分二厘ノ低率ヲ示ス是レ運搬中ニ生スル故障ヲ除去シ得ルコトト及製作上其ノ他下檢査等ニ付直接職工等ヲ指導シ得ル機會アルコトトニ因ルモノノ如シ

七

（照參）使用ニ係ル瓦斯「メートル」ノ數（表中△印ハ減ヲ示ス）

一、左表ハ各地方廳ヨリ報告アリタル大正六年十二月三十一日現在使用ニ係ル瓦斯「メートル」ノ數ヲ集計シタルモノナリ

二、瓦斯事業ハ埼玉、岩手、鳥根、宮崎、沖繩ヲ除クノ外各地方ニ涉リテ其ノ經營ヲ見ルニ

至リ事業者ノ數ハ八十八ナリ而シテ前年末ノ事業者九十三ニ比シ四ヲ減セシハ時局發生以來炭價暴騰ノ爲解散セシモノアリシニ因ル

三、使用ニ係ル瓦斯「メートル」ノ總數ハ五十六萬七千八百四十六箇ニシテ之ヲ前年末現在五十九萬五千八百三十二箇ニ比較スルトキハ約二萬八千箇ヲ減少シタリ是レ瓦斯「メートル」檢定制度實施ノ結果使用休止ノ引用家等ニ取附ケアリタル「メートル」ヲ整理シタルト解散會社ノ使用數ノ減少及炭價暴騰ノ爲メ事業緊縮トニ基因スルモノノ如シ

地方別	事業者名	二燈	三燈	五燈	十燈	十五以上	計	前年同期末現在	増減	備考
東京	東京瓦斯	五、九七七	一六、四三三	一四、九三三	二、七九四	三、〇五六	二六、九三三	二八、五二五	△一、五九二	燈數ナキ
東京	八王子瓦斯	九二	二七	二九	一〇	四	一、二九二	一、二九二	△	
京都	京都瓦斯	一五、二二三	七、三〇一	八二	三〇七	二四	二四、八七八	二七、八五〇	△二、九七二	
京都	大阪瓦斯	一、三九九	五、五五四	六、三九六	九四	五二	六、七九三	六、〇三三	△三、三九元	
大阪	堺瓦斯	一	三、〇四	八九	一五	四	三、二四九	三、三四七	△	
大阪	泉州瓦斯	八〇五	五五四	五	一三	一五	一、四四一	一、四〇三	△三六	
大阪	横濱瓦斯	八、三四〇	七、三六六	一、七五五	四七	三〇七	一八、一七五	一七、五三三	△六四二	
大阪	横須賀瓦斯	三〇四	一、一五二	二五三	三六	二五	一、七五九	一、九〇三	△一四四	
神奈川	川崎派所	一、三八	四九	三	二	一	一、七五三	一、〇二四	△七二九	
神奈川	小田原瓦斯	五七	一九	七	一	一	七五	七五	△	
神奈川	浦賀瓦斯	三九五	四	七	二	二	四四八	三四九	△九九	
神奈川	神戶瓦斯	五、四二一	三、九六	一、〇〇九	五七	二	三、〇八〇	二、六四九	△四三一	
兵庫	姫路瓦斯	一、〇八一	一五三	四〇	四	四	一、二八一	一、三九四	△一三三	

第一 大正六年度度量衡器甲種檢定成績

計	北海道	鹿兒島	熊本	佐賀	大分	福岡										高知	愛媛	香川	徳島			
事業者數	北海 道 函 小 館	電 氣 工 業 瓦 斯	熊 本 營 業 所	唐 津 出 張 所	佐 賀 瓦 斯	豐 州 瓦 斯	直 方 瓦 斯	若 松 瓦 斯	久 留 米 瓦 斯 局	大 牟 田 營 業 所	八 幡 營 業 所	西 條 合 同 瓦 斯	小 倉 營 業 所	門 司 營 業 所	博 多 營 業 所	西 條 合 同 瓦 斯	高 知 瓦 斯	今 治 瓦 斯	松 山 瓦 斯	關 西 瓦 斯	四 國 水 力 電 氣	徳 島 瓦 斯
公	1	563	773	550	549	2,100	563	1,635	1,233	564	1,266	675	1,633	2,404	846	574	1,211	511	1,211	731	1,048	
三	39,579	2,283	1,691	400	216	867	86	40	27	192	94	86	46	46	97	8	22	57	379	577		
三	3,248	377	363	113	25	238	14	20	70	29	13	23	23	40	8	5	28	23	379	133		
七	7,333	76	22	7	6	19	8	2	3	6	1	2	2	2	2	2	2	7	8	9		
六	6,221	20	2	5	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1		
五	5,678	4,999	2,775	1,094	758	1,433	2,253	690	1,364	705	80	2,192	3,253	1,014	600	1,381	75	1,131	1,231	1,652		
五	5,583	4,754	2,907	1,198	799	1,168	2,993	695	1,373	633	1,522	2,134	3,480	1,310	65	1,491	1,791	1,377	1,377	1,688		
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
△	27,966	23	133	104	26	740	5	197	57	73	9	47	58	27	30	5	75	1,033	1,033	1,688		
燈 數 十 五																						

和歌山	山口	廣島	岡山	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形	青森												
南 海 瓦 斯	和 歌 山 瓦 斯	防 府 瓦 斯	山 口 瓦 斯	下 ノ 關 瓦 斯	福 山 瓦 斯	吳 支 店	尾 道 支 店	廣 島 瓦 斯 電 軌	玉 島 營 業 所	岡 山 瓦 斯	米 子 營 業 所	鳥 取 營 業 所	中 越 瓦 斯	高 岡 瓦 斯	富 山 電 氣	金 澤 電 氣 瓦 斯	福 井 市	秋 田 瓦 斯	鶴 岡 瓦 斯	山 形 瓦 斯	青 森 瓦 斯	郡 山 電 氣
49	1,983	583	455	1,435	757	2,476	733	5,185	409	3,263	443	665	280	990	694	1,761	1,581	234	233	37	566	478
26	23	5	87	236	218	1,331	700	2,833	55	3,066	5	4	26	14	34	250	200	25	72	285	1	87
0	0	7	4	6	3	19	3	39	0	0	7	9	2	2	4	4	6	2	0	3	7	6
4	2	7	4	3	5	0	7	17	7	2	1	9	5	9	4	5	2	9	9	9	1	3
2	7	3	1	3	8	5	6	7	2	2	2	2	3	2	5	6	4	6	3	5	1	4
7	1,471	2,143	590	1,774	942	3,933	1,508	8,524	443	6,833	504	749	336	1,089	972	2,095	1,850	433	355	792	565	1,477
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	1,994	685	691	1,843	988	3,942	1,600	8,666	588	7,579	776	863	333	1,091	984	2,099	1,879	830	357	808	606	1,477
二	1,994	14	101	69	18	13	5	103	55	696	33	13	4	2	3	6	9	47	33	16	41	1,477

第二 大正六年度度量衡器又ハ計量器比較検査成績

本年度ニ於ケル度量衡器又ハ計量器ノ比較検査總箇數ハ六千四百八十四箇、此ノ検査手數料ハ二千三百八十六圓餘ナリ之ヲ前年度ニ比スルトキハ箇數ニ於テ三千五百五箇、手數料ニ於テ五百三十二圓餘ノ増加ヲ示セリ（比第一表）而シテ累年比較表（比第四表）ニ依リ比較検査申請ノ趨勢ヲ觀ルトキハ大正五年度ヲ除クノ外逐年多少増加ノ傾向ヲ持續シ來リ而カモ本年度ニ於テハ著シク増加スルニ至レリ是レ重ニ寒暖計ナルコトハ比第二表ニ依リテ明カナリ

從來我國ニテ使用スル寒暖計ハ主トシテ獨逸製品ナリシカ世界的動亂ノ影響ヲ受ケ輸入全ク杜絶シテ以來勢ヒ自國製品ヲ使用セサルヘカラサルノミナラス體溫計ノ如キハ反對ニ海外ヨリ多數ノ註文ヲ受クルニ至リタル爲之等商人ハ盛ニ無検査ノ粗製品ヲ輸出セリ之カ爲近來ハ日本政府證明附ヲ條件トシテ註文シ來ルニ依リ斯カル増加ヲ見ルニ至リタル所以ナリ然ルニ急激ノ需要増加ハ勢ヒ粗製濫造ノ弊ニ陥リ本年度ニ於テハ約二割ノ不合格ヲ出セリ之ヲ前年度ノ一割六分ニ比較スルトキハ稍不成績ヲ示ス尙試ニ一般度量衡器檢定ニ於ケル本年度ノ不合格率二分五厘ニ比スルトキハ約八倍ニ當ルノ不成績ヲ呈シタルハ寔ニ遺憾トスル所ナリ以下之等成績表ノ二三ヲ掲クヘシ

大正六年度比較検査箇數及手數料比較表（△印ハ減ヲ示ス）（比第一表）

種別	検査箇數	手數料	前年度トノ比較	
			箇數	手數料
度量衡器	一七九	三七・一〇〇	△	△
計量器	六、三〇五	二、三四八・九六〇	三、五四九	五六八・九三〇
計	六、四八四	二、三八六・〇八〇	三、五〇五	五三三・七三〇

大正六年度比較検査箇數及手數料種類別表（△印ハ減ヲ示ス）（比第二表）

種別	箇數	手數料	前年度トノ比較	
			箇數	手數料
度量器	一	四三・〇〇〇	△	△
量器	二	四・〇〇〇	△	△
衡器	一七六	二八・八〇〇	△	△
寒暖計	四、七五七	一、六四八・八六〇	三、四七〇	七五九・一五〇
比重計	一、二七一	四二・一九七〇	八七	一七三・三〇〇
壓力計	二五	一三・九〇〇	一一	六七・〇〇〇
其他ノ計量器	二五三	二六四・二五〇	△	△
計	六、四八四	二、三八六・〇八〇	三、五〇五	五三三・七三〇

第二 大正六年度度量衡器又ハ計量器比較検査成績

照參 前年度分	合計	羅 暹			哇 布		加利弗亞		陀
		小計	量器	度器	小計	量器	小計	量器	小計
九,六八五・二〇〇	一七,二九三 一〇,〇〇七 七,二八六	六九〇	五四〇	一五〇			一六	一六	四六
四,〇二二	一七,七四五 一七,七四五	一四〇	二一〇	三〇			一〇六	一〇六	二五三
二,〇〇六	二五,二四三 六,〇一七	五三	五三						
三,〇六六	八,七九一 一八,六六二	一	一		四,三四	四,三四	三,七六〇	三,七六〇	
二,九五四	二五,七五〇 六	三六	三六		八七	八七	八四八	八四八	
二五,七六六	二七 二九								
四九〇	九五,八四三 一五				五,七六〇	五,七六〇	三,〇四	三,〇四	
九五,八五七	三,四九六 一,〇四七				二,七六	二,七六	四	四	
四,五四四	八,八五二 二〇,二三三								
八,八五二	三,〇五三 三,〇五三								
三,〇五三	七,八六〇 八〇八								
八,六六八	一,五七〇 三,七四五								
一,三六七	一,二五〇 一,一〇五				一〇,〇四	一〇,〇四	六,九六	六,九六	四六
一八二,二九〇	二〇三,八七六 八二,二七四				一,三三	一,三三	一四八	一四八	二五三

(價格ハ圓單位)

三四

大正六年度移出度量衡器 (其ノ二)

移出先	製 地方別	種 別	朝 鮮		臺 灣		樺 太		合 計
			小計	量器	小計	量器	小計	量器	
東京	筒數	七,九七三	二五,九〇〇	八五,五六一	二九,六八〇	五九	五九	一八三,七〇〇	
東京	價格	一七,三四四	一〇,五六六	二一,二〇五	一六,五三三	一〇六	一〇六	二四三,〇三三	
神奈川	筒數	二五,二九〇	九三,三四一	二五,二九〇	二五,二九〇			二五二,九〇〇	
神奈川	價格	五,七九九	八〇,九四一	五,七九九	二五,八九七			五,七九九	
兵庫	筒數	三,六〇〇	三,六〇〇	三,六〇〇	三,六〇〇			三,六〇〇	
兵庫	價格	一,九七八	一,九七八	一,九七八	一,九七八			一,九七八	
愛知	筒數	九,六八八	九,六八八	九,六八八	九,六八八			九六,六八八	
愛知	價格	七〇,二〇六	七〇,二〇六	七〇,二〇六	七〇,二〇六			七〇,二〇六	
知	筒數	二六,四七三	一〇〇,五八八	八五,五六一	二九,六八〇	五九	五九	五三六,七五八	
知	價格	七,二二二	七,二二二	二一,二〇五	一六,五三三	一〇六	一〇六	三〇,九一五	
合計	筒數	一〇〇,五八八	三〇,六七〇	一〇〇,五八八	三〇,六七〇	一〇六	一〇六	一〇〇,五八八	
合計	價格	二〇三,八七六	一〇,九四一	二〇三,八七六	一〇,九四一	一〇六	一〇六	二〇三,八七六	

第三 大正六年度輸移出度量衡器

三五

附
錄

參
照
前
年
度
分

三〇、四九
二〇、七三
(價格ハ圓單位)

三六

備
考

尙右ノ外朝鮮特許移入販賣者ニ於テ内地製作者ヨリ特許移入シタルモノ數量七、六七六箇價格七、三二二圓アリ

一 農商務省官制沿革

(明治三十年十月二十二日勅令第二八二號)

第六條 商工局ニ於テハ商事、工業、工場法及度量衡ニ關スル事務ヲ掌ル

二項省略

商工局ニ中央度量衡檢定所ヲ置キ度量衡器ノ檢定並度量衡器又ハ計量器ノ比較検査及試験其ノ他
度量衡又ハ計量ニ關スル事務ヲ掌ラシム

農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ中央度量衡檢定所ノ支所ヲ設ケ中央度量衡檢定所ノ事務ヲ分掌セ
シムルコトヲ得

中央度量衡檢定所長ハ農商務技師、支所長ハ農商務技師又ハ農商務技手ヲ以テ之ニ充ツ

農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ中央度量衡檢定所ノ出張所又ハ中央度量衡檢定所支所ノ出張所ヲ
設クルコトヲ得(大正五年十一月二十五日勅令第二三八號ヲ以テ追加)

二 中央度量衡檢定所位置ノ件

(明治三十六年十二月二十六日農商務省告示第二百五十八號)

中央度量衡檢定所位置ヲ左ノ通相定ム

中央度量衡檢定所 東京市京橋區木挽町農商務省構内

三 中央度量衡檢定所支所及出張所ノ名稱、位置等ニ關スル件

(大正七年一月二十一日農商務省令第二號)

中央度量衡檢定所支所並出張所ノ名稱位置及取扱事務左ノ如シ

名 稱	位 置	取 扱 事 務
中央度量衡檢定所大阪支所	大阪市西區西川口町廿三番地ノ一	甲種檢定ニ關スル事務
中央度量衡檢定所大阪支所 廣島出張所	廣島市大手町七丁目四番地	瓦斯「メートル」ニ關スル事務
中央度量衡檢定所福岡支所	福岡市藥院堀端七番地	甲種檢定ニ關スル事務

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ中央度量所檢定所大阪支所廣島出張所ノ事務ハ大正七年二月一日ヨリ之ヲ開始ス

大正二年農商務省令第五號ハ之ヲ廢止ス

四 中央度量衡檢定所及支所事務取扱區域ノ件

(大正五年六月三日農商務省告示第四百四號)

本 支 所	區 域
中央度量衡檢定所	北海道 東京府 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 靜岡縣 山梨縣 長野縣 宮城縣 福島縣 巖手縣 青森縣 山形縣 秋田縣 石川縣 富山縣 兵庫縣 奈良縣 三重縣 愛知縣 京都府 大阪府 岐阜縣 福井縣 鳥取縣 島根縣 岡山縣 滋賀縣 和歌山縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣 廣島縣 山口縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 福岡支所 長崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

五 度量衡ニ關シ地方長官ニ委任スル事項

(大正五年八月二十八日農商務省令第二十二號)

度量衡ニ關シ左ノ事項ハ度量衡器ノ製作、輸入、移入若ハ修覆ヲ取扱フ營業所又ハ度量衡器ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ委任ス但シ第一號ノ事項ニ付テハ東京大阪府及福岡縣ヲ除ク

- 一 修覆シタル「ヤード、ポンド」法衡器ノ檢定ニ關スル件
- 二 度量衡法施行令第九條但書ニ依リ輸出又ハ移出スル度量衡器ノ製作、輸入、移入又ハ修覆ノ許可ニ關スル件

附 則

本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行前ニ爲シタル請求及出願ニハ之ヲ適用セス

六 度量衡器又ハ計量器ノ比較検査手数料ニ關スル件

(大正四年四月二十八日勅令第五十六號)

第一條 農商務大臣ニ度量衡器又ハ計量器ノ比較検査ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 度器又ハ量器ノ全長、全量、目盛又ハ材料ノ膨脹率若ハ伸縮率ノ検査
 - 一箇ニ付 五十錢以上十圓以下
- 二 天秤又ハ比重天秤ノ「ライダー」又ハ目盛ノ検査
 - 一箇ニ付 五十錢以上十圓以下
- 三 分銅ノ重量ノ検査
 - 一箇ニ付 十錢以上五十錢以下
- 四 分銅ノ比重ノ検査
 - 一箇ニ付 五十錢以上一圓以下
- 五 瓦斯「メートル」標準錘又ハ標準瓦斯「メートル」
 - 一箇ニ付 三圓以上十圓以下
- 六 寒暖計又ハ浮秤ノ検査
 - 一箇ニ付 五錢以上五圓以下

七 壓力計ノ検査

一箇ニ付 十五錢以上五圓以下

第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附 則

本令ハ大正四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第九十四號ハ之ヲ廢止ス

參照

大正四年勅令第五十六號度量衡器又ハ計量器ノ比較検査ニ關スル件第一條ノ最高及最低ノ範圍ニ於テ徵收スル手数料ハ大正四年六月五日農商務省告示第百五十九號ヲ以テ、同條第二項ニ依リ徵收スル手数料ハ大正四年十月四日農商務省告示第百八十五號ヲ以テ公示セラレタルモ尙比較検査ノ申請ヲ爲サムトスル者ノ便宜ヲ圖ラムカ爲本所ニ於テ「比較検査申請案内」ヲ刊行希望ノ向ニ夫々頒布シツツアリ

七 甲種檢定請求者及度量衡器又ハ計量器ノ比較検査依頼者心得

(明治四十二年七月二十二日農商務省告示第三百三十二號)
(同四十三年十二月九日農商務省告示第六四四號ヲ以テ改正)

第一條 度量衡器ノ甲種檢定ヲ請求シ又ハ度量衡器若ハ計量器ノ比較検査ノ依頼ヲ爲ス者ハ小包郵

附 錄

便其ノ他ノ運送方法ニ依リ其ノ檢定又ハ檢査ヲ受クヘキ器物ヲ差出スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ請求者又ハ依頼者カ檢定所又ハ其ノ支所ノ所在地ニ居住セサルトキハ檢定所又
ハ其ノ支所ノ所在地ニ器物ノ引取人ヲ定メ其ノ住所氏名ヲ前項器物ノ差出ト同時ニ檢定所又ハ其
ノ支所ニ届出ツヘシ

第二條 中央度量衡檢定所又ハ其ノ支所ニ於テ檢定又ハ檢査ヲ爲スヘキ器物ヲ受理シタル後ハ其ノ
引替ヲ請求スルコトヲ得ス但シ化學用量器ニシテ破損ヲ生シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 比較檢査ノ依頼ヲ爲ス器物ニハ番號又ハ符號ヲ附スヘシ但シ之ヲ附シ難キモノニ在リテハ
其ノ容器ニ附スルコトヲ得

第四條 檢定請求又ハ比較檢査依頼ノ器物ニシテ組立方法ヲ申出テサルモノニ在リテハ當該官吏ハ
任意ノ組立ヲ爲スヘシ

第五條 中央度量衡檢定所又ハ其ノ支所ヨリ器物引取方ノ通知ヲ爲シタル場合ニ於テハ指定ノ期間
内ニ其ノ引取ヲ爲スヘシ

前項ノ期間内ニ器物ノ引取ヲ爲ササル場合ニ於テハ檢定所又ハ其ノ支所ハ其ノ器物ヲ請求者、依
頼者又ハ器物ノ引取人ノ費用負擔ニ於テ之ヲ返送スルコトアルヘシ

八 中央度量衡檢定所處務細則

(大正二年七月七日商第四九二六號裁令、同五年六月二十八日商第八八三八號ニテ本細則中改正)

第一章 總 則

第一條 所長ハ主管事務ノ處理及部下職員ノ監視ニ付其ノ責ニ任ス

第二條 支所長ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ支所ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス

第三條 檢定所ニ庶務係及技術係ヲ置キ左ノ事務ヲ分掌セシム但シ支所ハ此ノ限ニ在ラス

庶 務 係

一 文書ノ接受、發送、編纂及保存竝統計ニ關スル事項

二 度量衡器ノ營業免許及取締ニ關スル事項

三 地方廳ノ管掌ニ係ル度量衡器ノ檢定及取締ノ監督ニ關スル事項

四 「メートル」條約ニ關スル事項

五 度量衡費支辨ニ屬スル物品ノ出納及役務賃料請求ニ關スル事項

六 度量衡技術講習ニ關スル事項

七 右ノ外技術係ノ主宰ニ屬セサル事項

技 術 係

一 度量衡原器副原器ノ保管ニ關スル事項

- 二 地方原器檢定及取締用具ノ設計並検査ニ關スル事項
 - 三 度量衡器及計量器ノ檢定並比較検査ニ關スル事項
 - 四 度量衡器又ハ計量器ノ改良試驗ニ關スル事項
 - 五 右ノ外度量衡又ハ計量上ノ技術ニ關スル事項
- 第三條ノ二 所長ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外左ニ掲クル事項ハ之ヲ專決スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 一 書類ノ訂正、督促、問合其ノ他庶務整理ノ必要ニ依リ照會往復ノ件
 - 二 處分未濟ノ書類ヲ提出者ノ請求ニ依リ返戻ノ件
 - 三 度量衡其ノ他關係事項ニ關シ學校官廳等ノ依頼ニ依ル紹介狀交付ノ件
 - 四 定期刊行物其ノ他ノ編纂發行及印刷物ノ配付、取寄並寄贈圖書標本等ノ領收書又ハ謝狀發送ニ關スル件
 - 五 判任官以下出張發著及缺勤届處理並宅調及外勤ヲ命スル件但シ一週間以上ニ涉ル缺勤届ヲ除ク
 - 六 内國博覽會共進會其ノ他類似ノ會又ハ道廳府縣ノ請求ニ依リ參考品ノ出陳又ハ貸與ノ件
 - 七 遺失物處分ノ件

- 八 法規定例ニ依リ官廳其ノ他ヨリ提出スル各種ノ報告及統計處理ノ件
- 九 公益法人ヨリ提出スル届書及報告處理ノ件
- 十 判任官以下受驗、看護、歸省、墓參、轉地療養及施行願ノ處理及除服出仕ヲ命スル件
- 十一 出張旅費ノ請求及精算書處理ノ件
- 十二 物品ノ請求返納及受入拂出記帳並役務賃料等ノ請求ニ關スル件
- 十三 物品ノ受拂、検査、授受等ノ報告書處理ノ件
- 十四 度量衡器ノ製作營業身元保證金供託報告處理ノ件
- 十五 度量衡器製作營業所ノ新設若ハ位置變更願又ハ其ノ廢止届及工場ノ新設、廢止若ハ位置變更届處理ノ件
- 十六 度量衡器ノ記號届處理ノ件
- 十七 度量衡器製作免許狀ノ書換、更正又ハ再下付願及返納届處理ノ件
- 十八 二度量衡器甲種檢定請求處理及檢定成績決定ノ件
- 十九 度量衡器出張檢定願處理ノ件
- 二十 度量衡器檢定ノ爲高等官以下出張ノ件
- 二十一 物品共用主任命免ノ件

- 二十二 度量衡器又ハ計量器比較検査申請處理及検査成績決定ノ件
- 二十三 檢定及検査用具比較検査成績及器差ノ限度決定ノ件
- 二十四 概算金五十圓未滿ノ新營及修繕工事ニ關シ會計課ヘ照會ノ件
- 二十五 使用済ノ檢定證印及比較検査證印抹消處理ノ件
- 二十六 度量衡費所屬給仕、職工、定夫及小遣ノ傭罷並賞與ノ件
- 二十七 支所員ノ勤怠報告處理ノ件
- 第三條ノ三 支所長ノ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外前條第一號乃至第七號、第十號（受験願ヲ除ク）及第十八號乃至第二十一號ノ事項ハ之ヲ專決スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 文書ノ處理

- 第四條 檢定所ニ到達スル公文書ハ收受主任ニ於テ接受又ハ開封シ收受年月日及番號等ヲ記入シ簿冊ニ登載シタル後之ヲ各主任ニ配付シ受領者ノ認印ヲ徵スヘシ
- 檢定請求書及比較検査申請書ハ通常文書ト區別ヲ爲シ收受年月日、番號、器物ノ種類、箇數、手數料額其ノ他必要ノ事項ヲ簿冊ニ登載シ收受主任之ヲ整理保管スヘシ但シ簿冊及番號ハ度量器、量器、衡器及比較検査器物ニ依リ各別ト爲スコトヲ要ス

- 第五條 各主任ニ於テ接受シタル文書ハ二日以内ニ成案ヲ具シ所長ニ差出スヘシ但シ緊急ヲ要スル事項ニ付テハ直ニ所長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第六條 決裁済ノ文書ハ之ヲ收受主任ニ交付スヘシ
- 收受主任決裁済ノ文書ヲ受ケタルトキハ其ノ淨書發送ヲ要スルモノハ即日之ヲ處理スヘシ
- 第七條 收受主任檢定請求書又ハ比較検査申請書ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ調査シ正當ト認メタル後收入印紙ニ消印ヲ附シ且其ノ書面ノ一端ニ檢定又ハ比較検査手數料額ヲ記入シ捺印スヘシ但シ收入印紙ノ貼附額ニシテ過剩又ハ不足アルトキ若ハ其ノ他ノ事故アルトキハ所長ノ指揮ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 請求書又ハ申請書ノ形式
- 二 請求書又ハ申請書ノ記載事項
- 三 貼附セル收入印紙額
- 四 請求書又ハ申請書記載ノ器物ノ種類及箇數ト現品トノ照合
- 五 其ノ他必要ト認ムル事項
- 第八條 支所ニ於テ取扱フヘキ事務ニシテ大臣又ハ局長ノ決裁ヲ受クヘキモノハ支所長ニ於テ立案シ所長ニ差出スヘシ

第九條 檢定請求書、比較検査申請書及檢定所本支所間ニ於ケル往復文書ニシテ完結シタルモノハ每一ケ年度ヲ分テ取纏メ翌年度四月三十日迄ニ文書課ニ引繼クヘシ但シ檢定請求書及比較検査申請書ハ毎月分ヲ一括シ其ノ件數ヲ表書シ一箇年度分ヲ假編輯スルコトヲ要ス
支所ニ於テ處理シタル文書ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外農商務省處務規程ノ定ムル處ニ依リ編纂保存スヘシ但シ保存期間ヲ滿了セサルモノト雖保存ノ必要ナキニ至リタルモノノ廢棄ニ付テハ商工局長ノ指揮ヲ受クルコトヲ要ス

商工局長前項但書ノ指揮ヲ爲サムトスルトキハ文書課長ニ合議スヘシ

第十條 支所ニ於テ處理シタル文書ハ其ノ項目、件數及處理ノ濟否ヲ區分シ毎月分ヲ翌月五日迄ニ所長ニ報告スヘシ

第三章 檢定及比較検査

第十一條 檢定及比較検査ハ收受番號ニ依リ順次之ヲ行フヘシ但シ特殊ノ事由アリト認ムルモノニ付テハ所長ノ指揮ヲ受ケ其ノ順序ヲ變更スルコトヲ得

第十二條 收受主任檢定請求又ハ比較検査申請ノ器物ヲ受理シタルトキハ之ニ傳票ヲ添ヘ當該主任ニ交付スヘシ
檢定請求書又ハ比較検査申請書ハ其ノ都度之ヲ所長ノ閱覽ニ供スヘシ

第十三條 檢定主任ハ其ノ日檢定ヲ終リタル器物ニ付請求者毎ニ合格不合格ノ員數不合格理由及檢定月日ヲ傳票ニ記入捺印シ器物ヲ添ヘ翌日午前中(其ノ日午前中ニ檢定済ノモノハ其ノ日)ニ收受主任ニ交付スヘシ收受主任前項ノ器物及傳票ヲ受取リタルトキハ合格不合格ノ員數檢定月日其ノ他必要ノ事項ヲ簿冊ニ登載シ傳票ト共ニ所長ノ決定ヲ經テ其ノ器物ヲ還付スルノ手續ヲ爲スヘシ
比較検査主任檢査ヲ終リタルトキハ檢査着手及終了ノ月日ヲ傳票ニ記載シ成績書ヲ要スルモノハ其成績書並器物ヲ添ヘ收受主任ニ交付シ收受主任ハ檢査着手及終了月日ヲ簿冊ニ登載シ所長ノ決定ヲ經テ成績書ノ交付及器物還付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 檢定及比較検査成績ハ收受主任ニ於テ每一箇月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ局長ニ供覽スヘシ支所ニ於テ取扱ヒタル檢定成績ハ每一箇月分ヲ取纏メ翌月五日迄ニ差出スヘシ

第四章 檢定用具

第十五條 檢定用具ハ毎年一回以上之ヲ検査スヘシ

第十六條 削除

第五章 雜 則

第十七條 第五條第七條及第十一條乃至第十三條ニ於テ所長トアルハ支所ニ在リテハ之ヲ支所長トス

第十八條 諸帳簿及諸表ノ様式ハ所長之ヲ定ム

第十九條 支所ノ出勤簿ハ支所長之ヲ管理スヘシ

支所長ハ毎月所員ノ勤惰ヲ翌月五日迄ニ所長ニ報告スヘシ

第二十條 削除

第二十一條 支所ニ在リテハ吏員一名小遣一名宿直スヘシ

宿直ニ關シテハ明治二十二年十一月達甲百八十九號ノ規定ヲ準用ス

大正八年一月廿八日印刷
大正八年一月三十日發行

農商務省

中央度量衡檢定所

東京市京橋區瀧山町七番地

印刷者 小川 邦 孝

東京市京橋區瀧山町七番地

印刷所 東京製本合資會社

電話新橋 七九五番
七九六番
七九七番

接替東京一七六九八番

1421
335

終

